学校番号	414

平成31年度　家庭科

教科	科目	開設学年（年時）	単位数	教材名等
家庭	子ども文化	3	2	ワークシート、プリント等
使用教科書	高等学校用　「子ども文化」　（文部科学省）			

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・子ども文化は、保育を志す生徒の選択科目のひとつです。子どもと遊び、表現活動、児童文化財等に関する知識と技術を中心に学びます。
・製作を中心に、実践的・体験的な学習を通して基本的な技術力の向上を図ります。
・保育園実習により、製作作品を用いて学んだことを生かす能力や態度を身につけ、子どもとの関わりに関心を持ち、積極的に取り組みましょう

2 学習の到達目標

様々な作業・体験学習を通して、子どもを理解する。子どもと子どもの生活スタイルを理解する。発見・驚き・感動を子供の発達や子育て支援に寄与する態度に繋げ、自らの自信に繋げるために、Plan→Do→See を実践する力を高め、将来への「夢」を実現していく力を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	子どもの児童文化財に関心を持ち、その伝承と創造の充実向上を目指して意欲的に取り組む。 子どもたちと積極的に関わることができる実践的な態度を身につけているか。	子どもの心身の発達を理解し、それぞれの年齢に応じた児童文化財や活動の選び方や与え方などを考え、保育実習において活用する力、表現する力を身につけている。	製作に関する取り組み姿勢と、基礎的・基本的な技術の向上を図り、創意・工夫に取り組み発展的に製作、段取りする力を身につけている。	子どもにとっての遊びの意義や心身の発達について理解する。 それぞれの活動や児童文化財の特徴や活用方法を学ぶ
評価方法	ワークシート等の記述 実習に向かう姿勢 実習記録レポートや 発表　観察　等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作計画、実習記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価等	実技実習の技能 製作実習レポート 実習制作作品 取り組み状況の観察 写真、記録 自己評価・相互評価等	授業プリント 学習状況の観察 製作計画、実習記録表 観察記録表 レポート、発表
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	・乳幼児の発達と特徴を意識した、児童文化財製作に取り組む。 ・成果の指針として、保育検定に準じた内容を取り入れる。 ・幼児への関わり方を理解するために、児童文化財等・コミュニケーション方法を活用して、体験的に実践し理解を深める。 ・個人、グループで自己表現できる力を身につける。

４ 学習の活動

学期	単元名	指導内容	主な評価の観点				評価のポイント	評価方法
			a	b	c	d		
4 5	子ども文化とは 子どもと遊び	子ども文化とは 遊びの魅力と特徴 愛着人形制作 名札づくり	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ 	a 子どもの発達にあった遊びを考えようとしている。 b 子どもと遊びについて自分なりに考え、昔を振り返り現在の子どもの遊びの変化と比較し、考察する。 c 愛着表現を理解するために、愛着人形を通して、体験的に育みを学びとらえ。基本的な技術を学習する。オリジナリティを出すため創意工夫をし、個性を活かし、名札制作で保育体験へとつなげる。 d 心身の発達を体験的に理解するとともに、発達の過程を理解する。	・授業観察 ・取り組み姿勢 ・ワークシート ・レポート ・制作作品 ・実技・実習 ・発表 ・相互評価
6 7	子どもと表現活動	造形表現（折り紙） 言語表現技術 （読み聞かせ） 布絵本製作 コミュニケーション方法　(CSP)	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a. 子どもの発達にあった表現方法を考えようとしている。 b. 子どもの発達にあった表現方法を自分なりに考え、工夫している。 c. 発達にあった表現方法を実際に活用し、製作や、作品にする d 表現方法を踏まえ、コミュニケーション力をつけるために、協調性をもって意見、感想、自分の考えが述べられる力を身に付けている。	・授業観察 ・取り組み姿勢 ・ワークシート ・レポート ・作品 ・実技・実習 ・発表 ・相互評価 ・定期考査
8	製作	布絵本製作			○		c 基本的な技術を学習したうえで、オリジナリティを出すため創意工夫をし、個性を活かし、布絵本を作る。	

9 10 11	子どもと表現活動 子どもと文学 幼児との交流を通して	子どもの遊び 設定保育にあわせた製作 グループ決め･製作実習 (ペープサート) (パネルシアター) (エプロンシアター) などより１種類 実習・製作 保育体験に向けての取り組み	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○	○ ○	a. 子どもの発達にあった表現方法から設定保育に合わせた取り組みを考えようとしている。 b. 子どもの発達にあった表現方法を自分なりに考え、児童文化財の作品制作の計画を立て段取り力を身につける c. 発達にあった表現方法を実際に制作することで実践的に活用し、子供の前で披露できる作品にする保育体験で使用 d 表現方法を踏まえ、コミュニケーション力をつけるために、協調性をもって意見、感想、自分の考えが述べられる力を身に付けている。	・授業観察 ・取り組み姿勢 ・ワークシート ・レポート ・制作作品 ・実技・実習 ・発表 ・相互評価
12 1	生活文化･コミュニケーション	保育体験 保育体験を終えての振り返り、 グループ発表	○ 	○ ○	○ 	 ○		・授業観察 ・取り組み姿勢 ・レポート ・作品 ・実技・実習 ・発表 ・相互評価

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
　　c：技能　　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。